

國輝画



西馬譚

神祠



弓張月

外題曲立國自

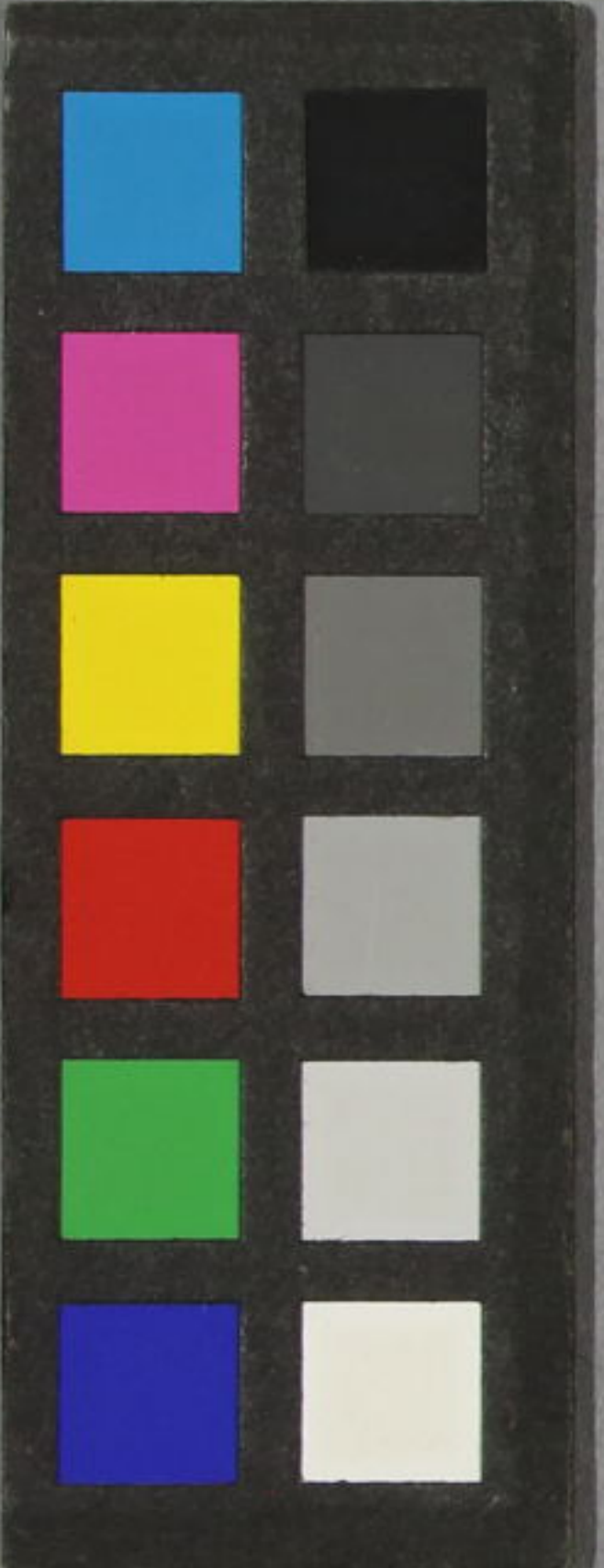
下編六十

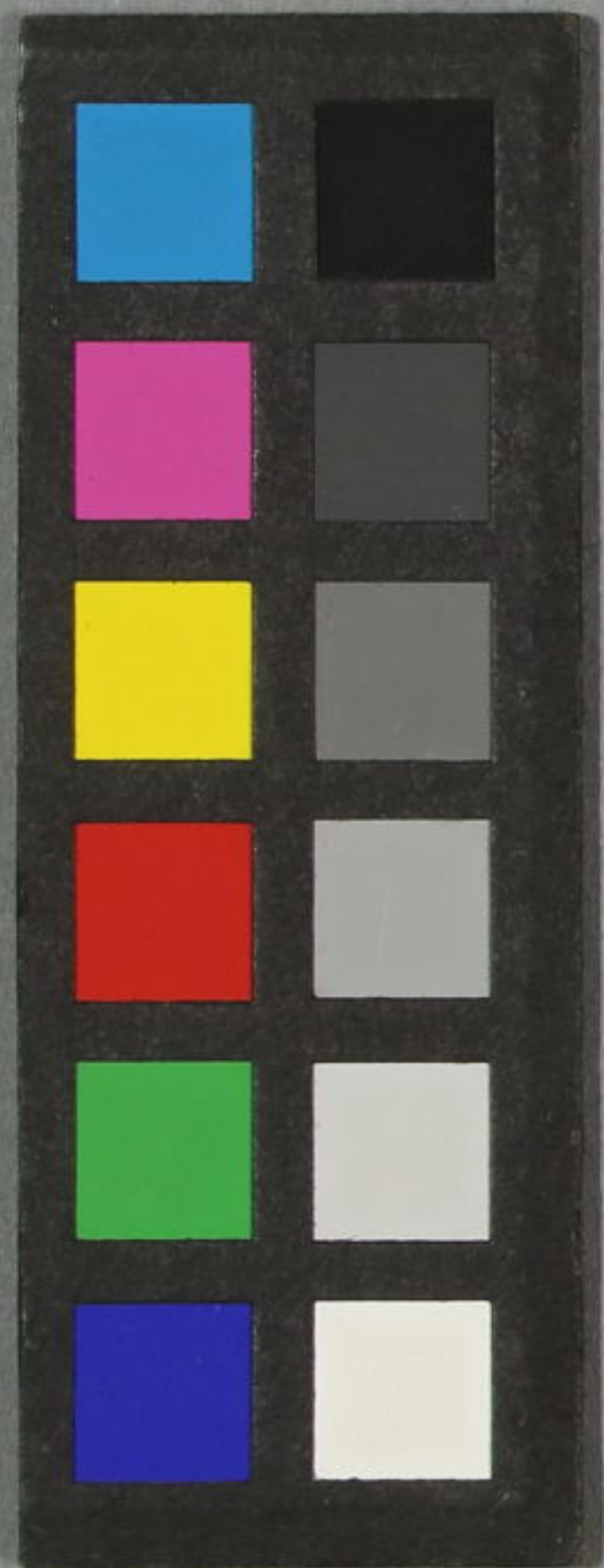
~ 13
3693
32

堂錦
販昇

十六編上

~ 13
3693
31





弓張月

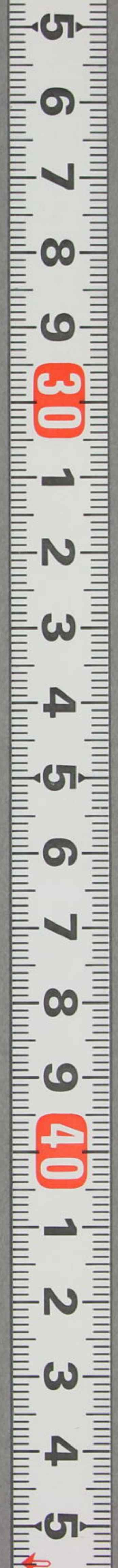
外題曲立國自

神祠

十六編上

錦昇堂 販

~ 13
3693
31



門 13
 3693
 31

三張月春宵榮上集 十六篇



樂亭
 國輝
 輝魚
 終昇堂梓

一 16

世三張月重輯十七十六編
 小玉既小十編の卷十小御曹子
 親族と推して渡海の船風難不遇不量琉玖の
 去不遷漂の條とよりて自ら図解漢と倭の間劇演され
 衣裳の記工悉く細画小本の装束元足より画す
 割刷も骨分れ黒羽三重や大徳のあまのりさへて援助のあらま
 漸壯編より惣巻軸を為朝の現給の少一の工業に美目
 受栄能人物の交るとり元未流花を稗史の
 比並端唄の几弾小會日席の何某樓が佳有滋味
 と都々一もち井の鉢を敲て騒ぐ休校の群酒煙煙
 の二云助四を別れもも吉怒哀榮の万里同風を又
 も新陽の御慰に呈せんと希ふ而已

利勇腹臣 李虎

安政四丁巳年 孟春新刻 樂亭西馬識



五 孟春新刻 樂亭西馬識



辨ヶ嶽
就鳥巢山麓
山賤女
海棠

妹



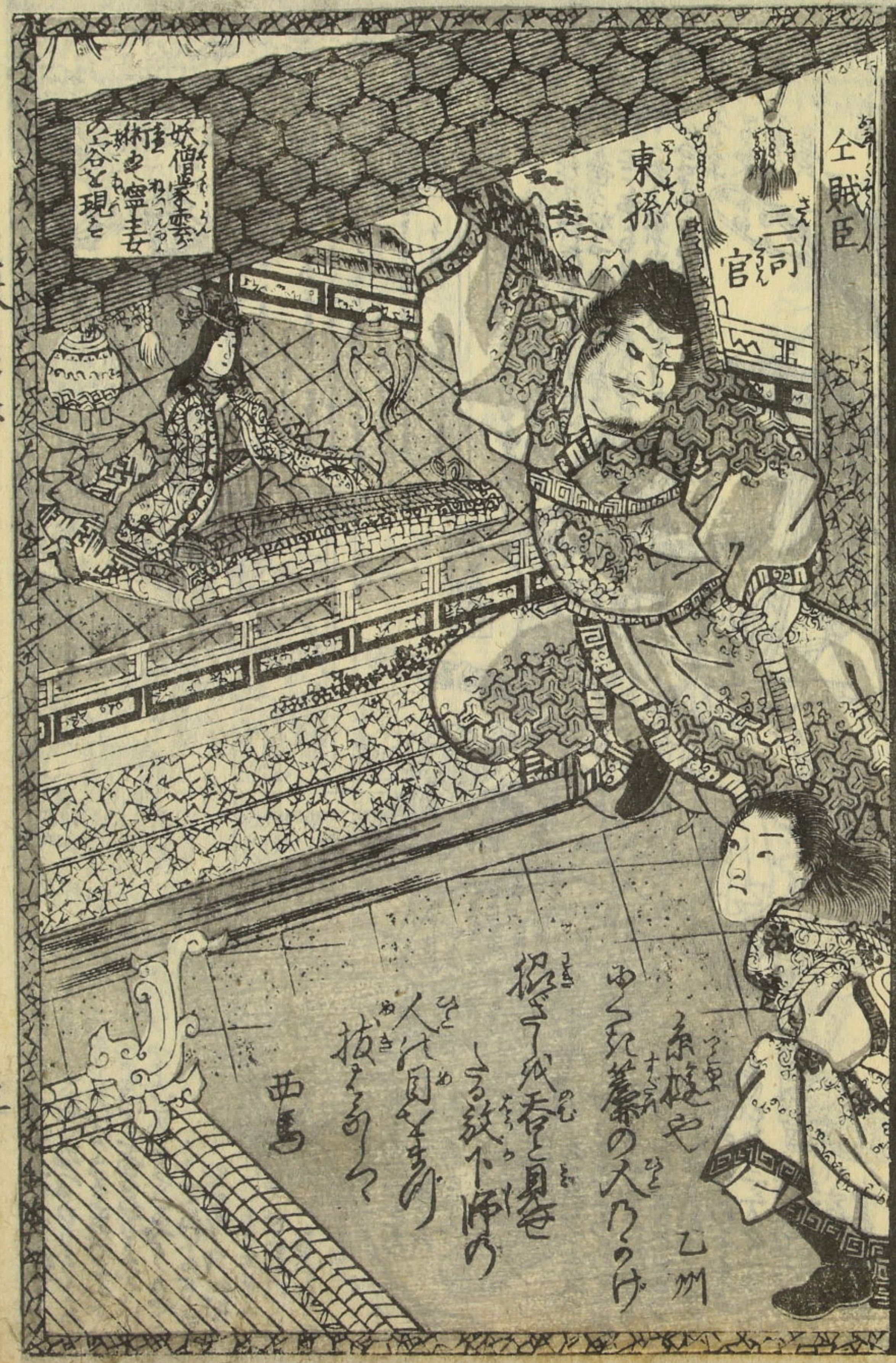
秀雨に木下周乃
袋懐我 嵐雪

神
庭を雨に
惚ちやら
木のみの

御曹子
源八郎
為朝

辨ヶ嶽の
大就鳥

利勇腹臣趙豹





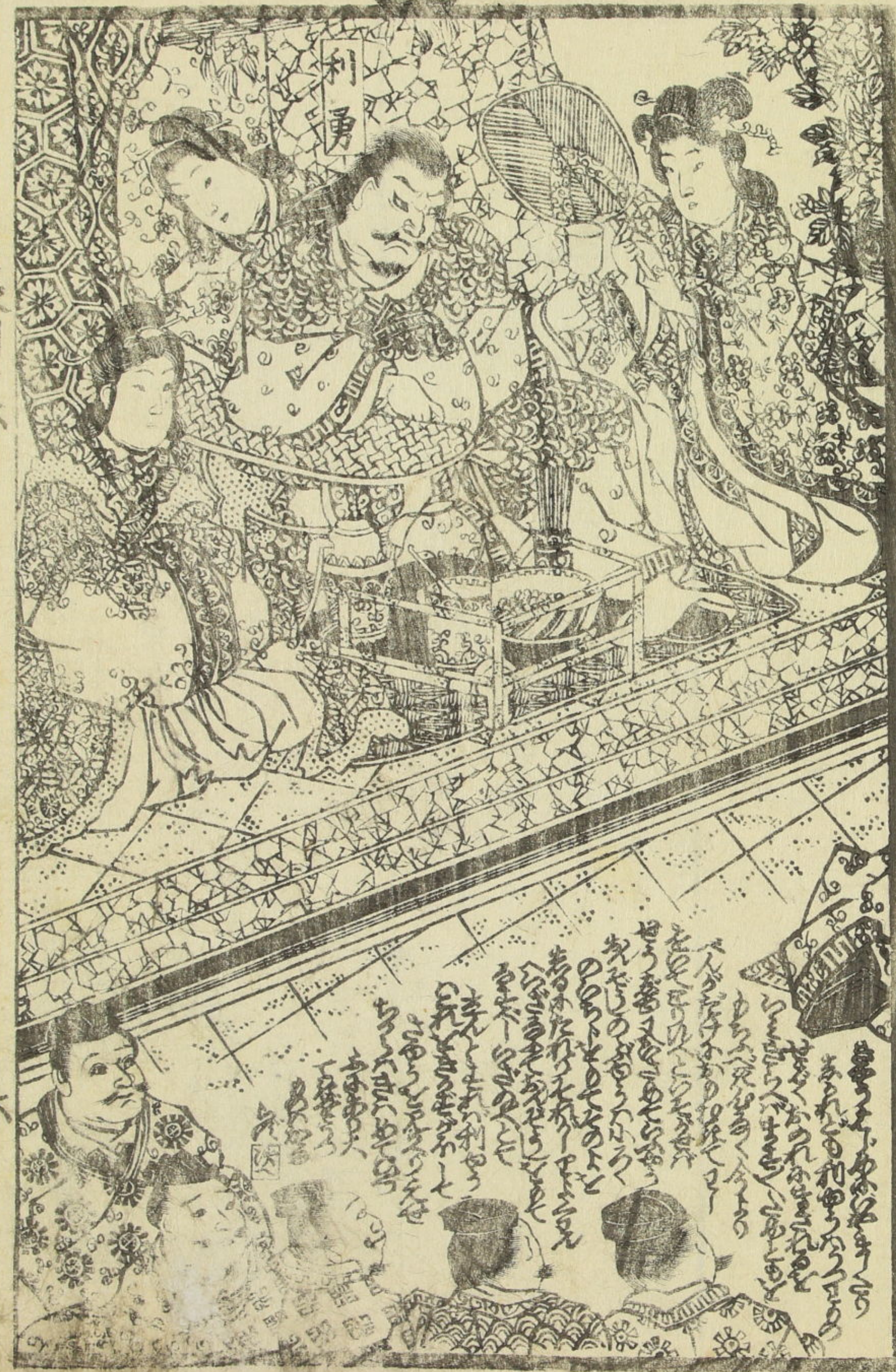
招武牌
 十月 日
 源為朝

十五んもつたてふかふまの
 ちのたあめく用度一のさか
 ちのたまめまめゆ又せう
 ちのたあめく用度一のさか
 ちのたまめまめゆ又せう
 ちのたあめく用度一のさか
 ちのたまめまめゆ又せう

源為朝
 ちのたあめく用度一のさか
 ちのたまめまめゆ又せう
 ちのたあめく用度一のさか
 ちのたまめまめゆ又せう
 ちのたあめく用度一のさか
 ちのたまめまめゆ又せう



松林
 ちのたあめく用度一のさか
 ちのたまめまめゆ又せう
 ちのたあめく用度一のさか
 ちのたまめまめゆ又せう
 ちのたあめく用度一のさか
 ちのたまめまめゆ又せう



利勇



為朝

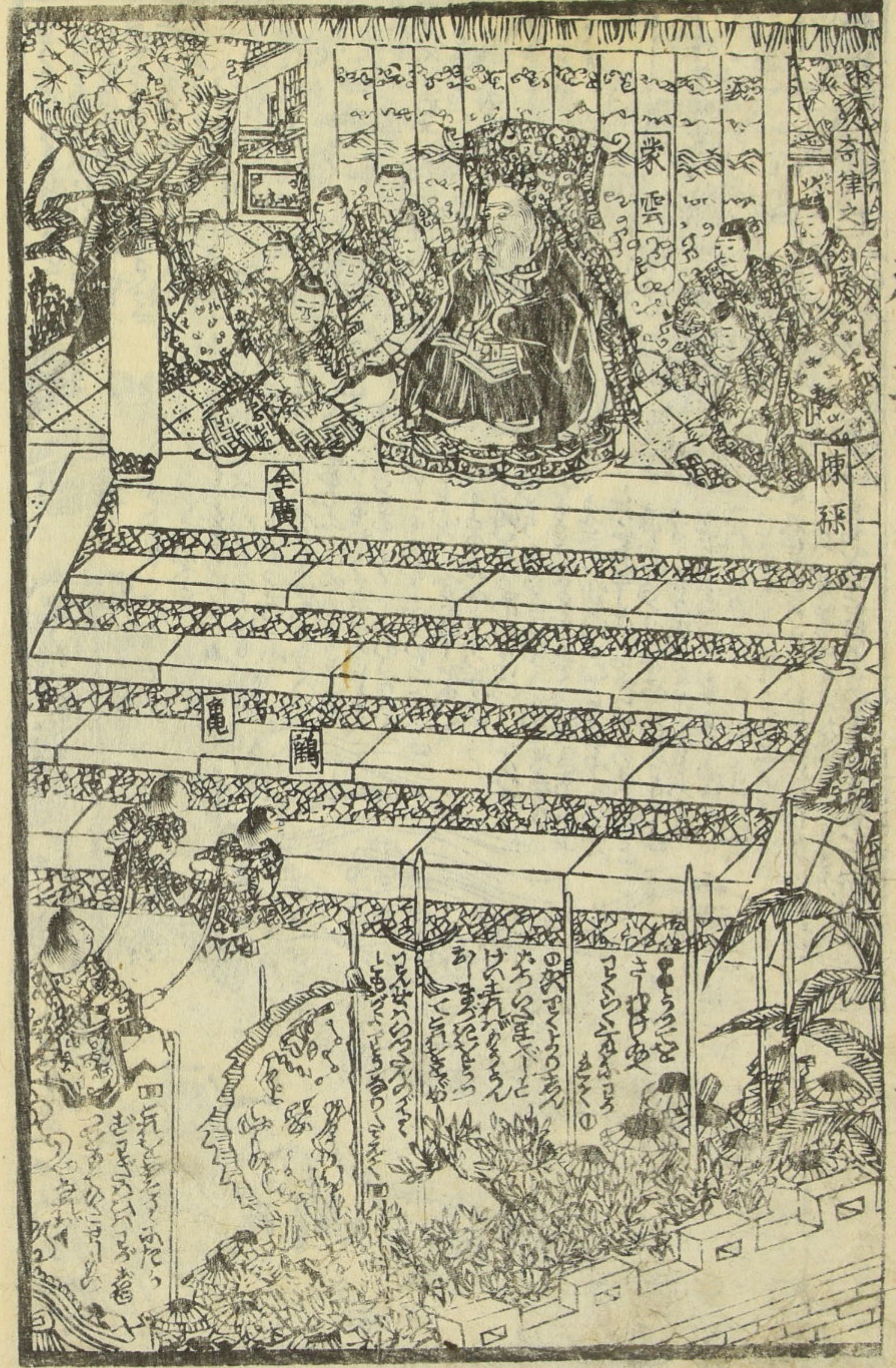
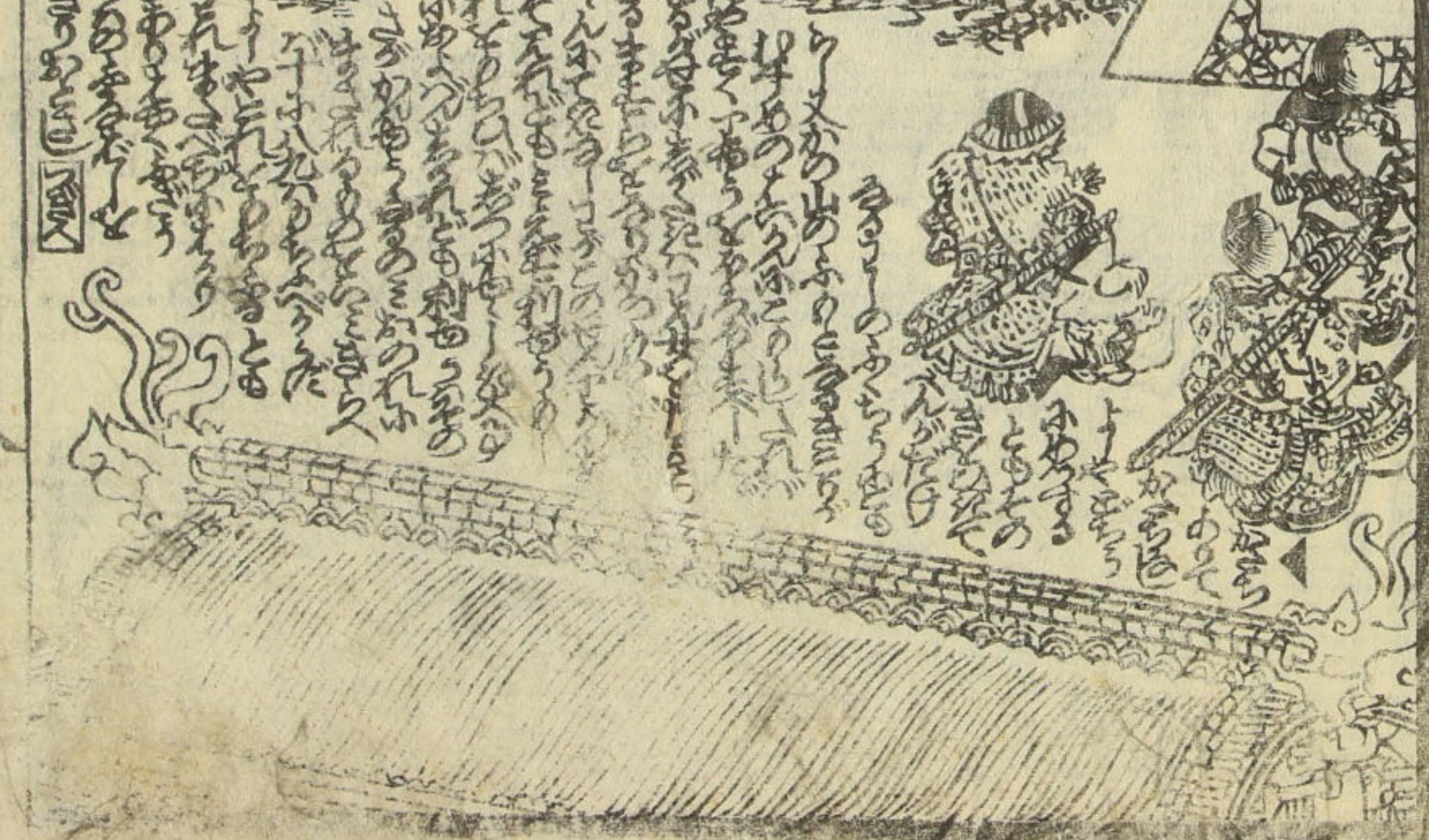
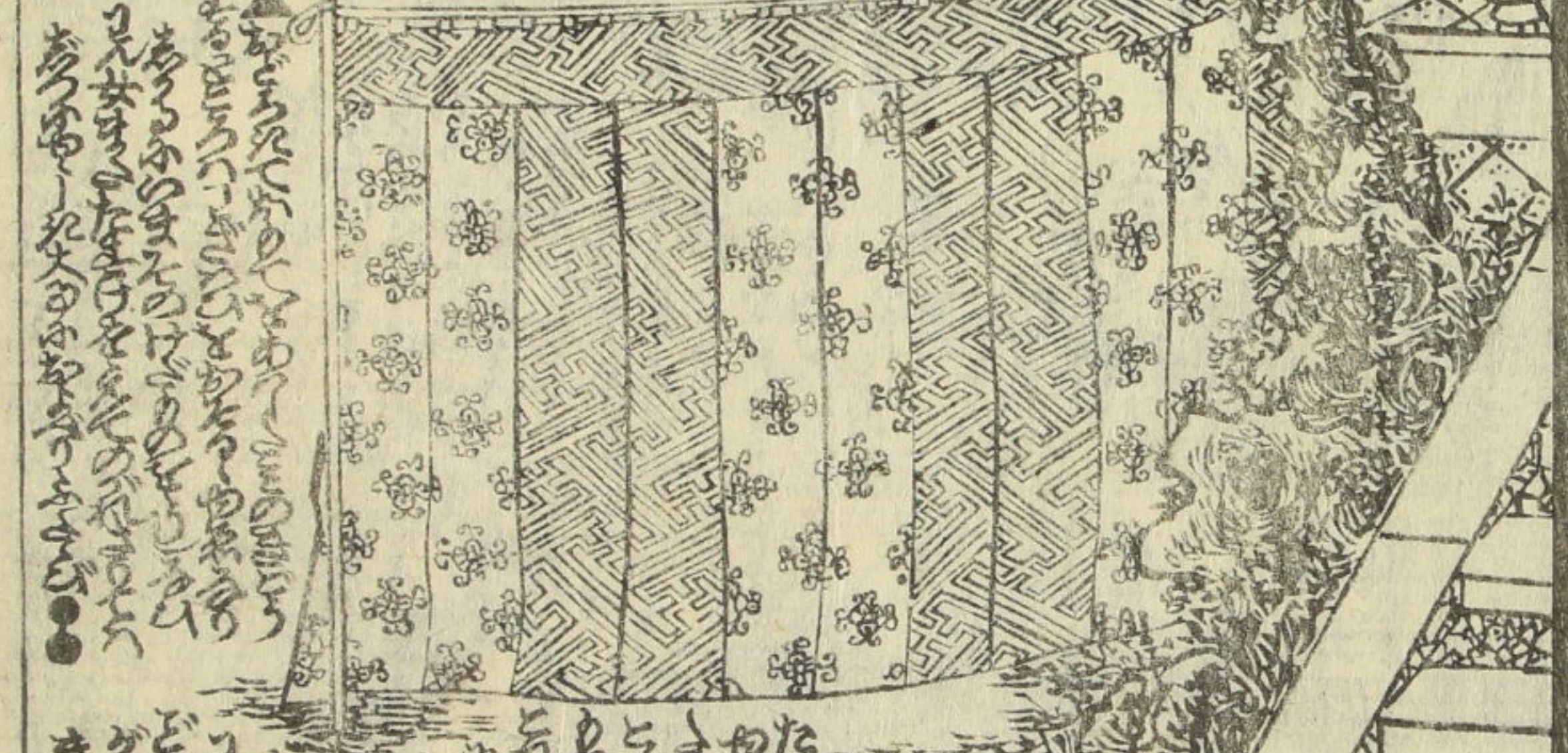
陶松上壽



五月廿七日

五

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a preface or introductory chapter, located at the top of the left page.



白洲月十

奇律之

棟祿

全廣

龍

蘭

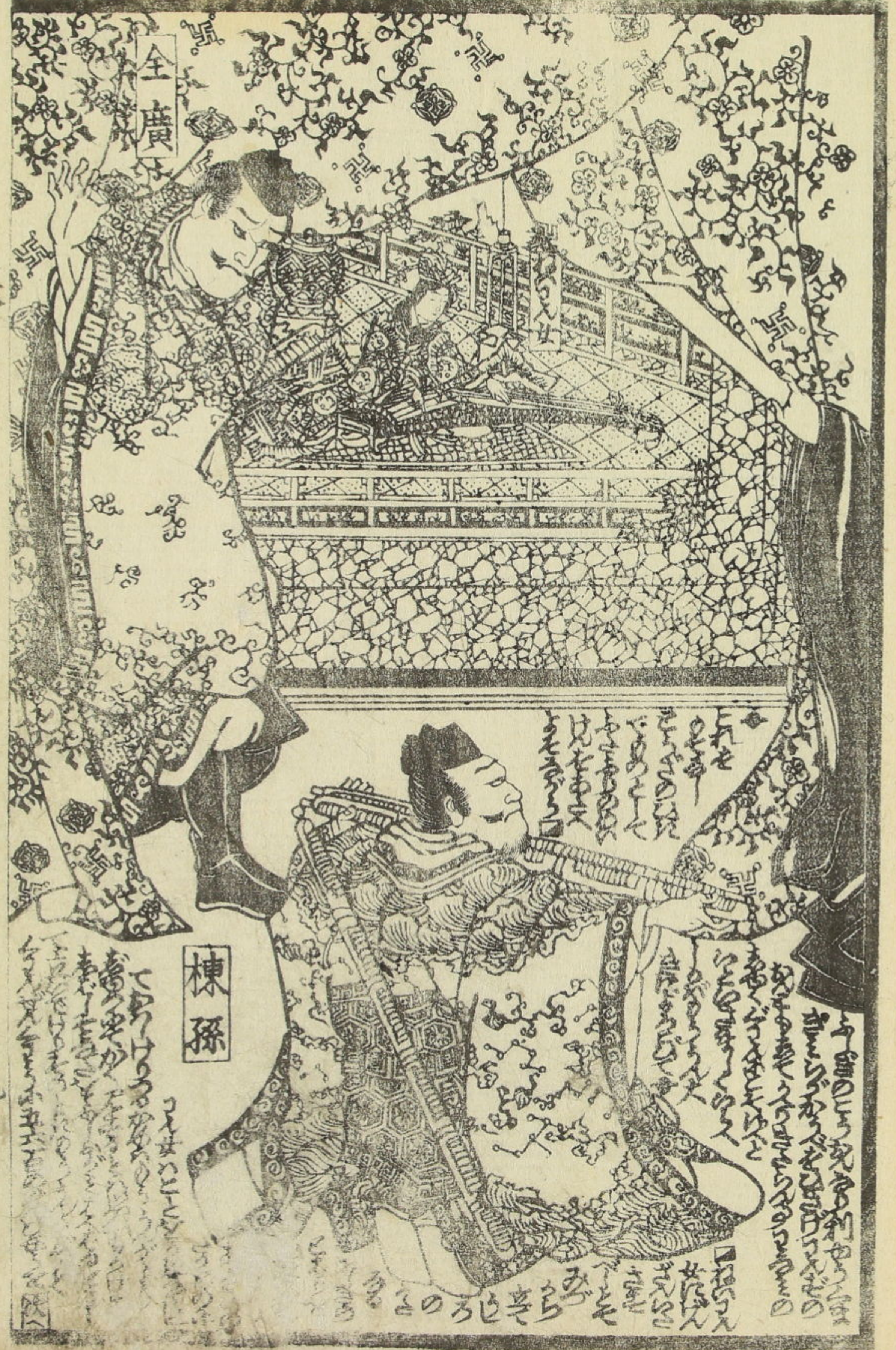
Vertical columns of handwritten Japanese text located within the lower part of the illustration on the right page.

Handwritten text in vertical columns, likely a preface or introductory text.



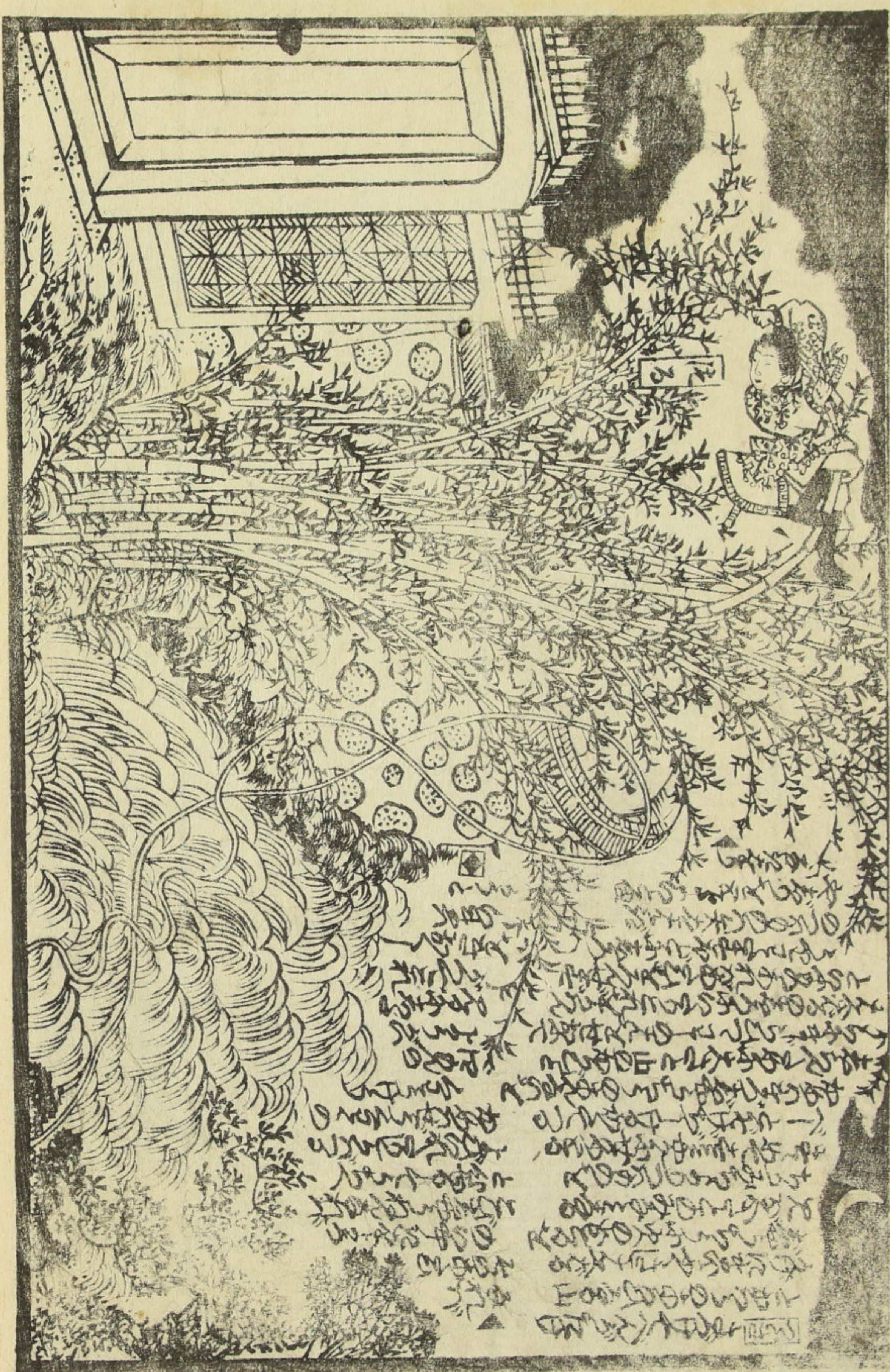
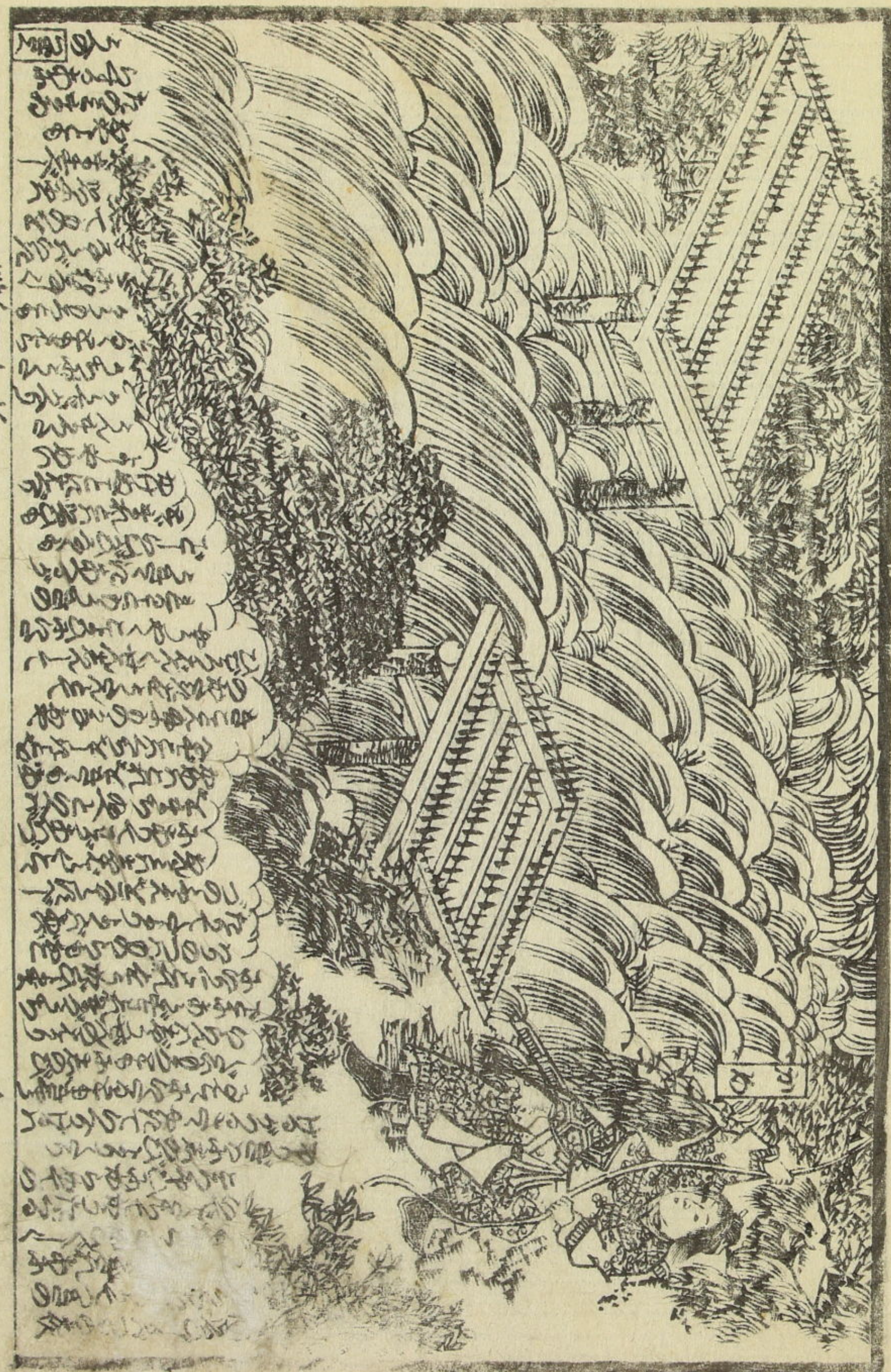
蒙雲

鶴



棟孫

全廣



錦昇堂新發行目錄

東錦繪草紙問屋

照降町

惠比壽屋庄七梓

西馬驛
弓張
月春
宵榮
國輝画

小夜衛
戀衣
嫩雜史
西馬化

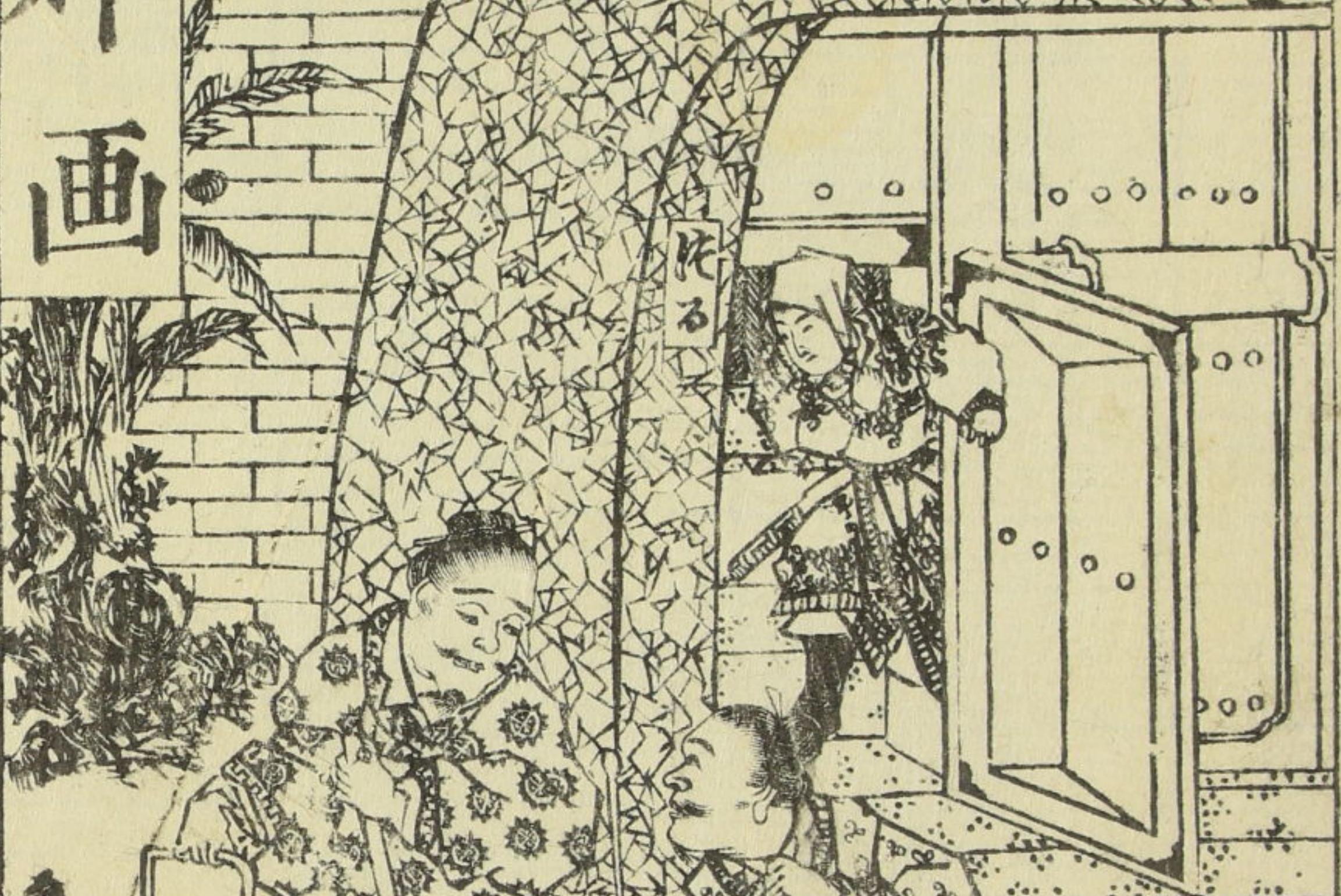
小夜衛白波草紙

仙果作
芳席画

笑
日記
國輝画

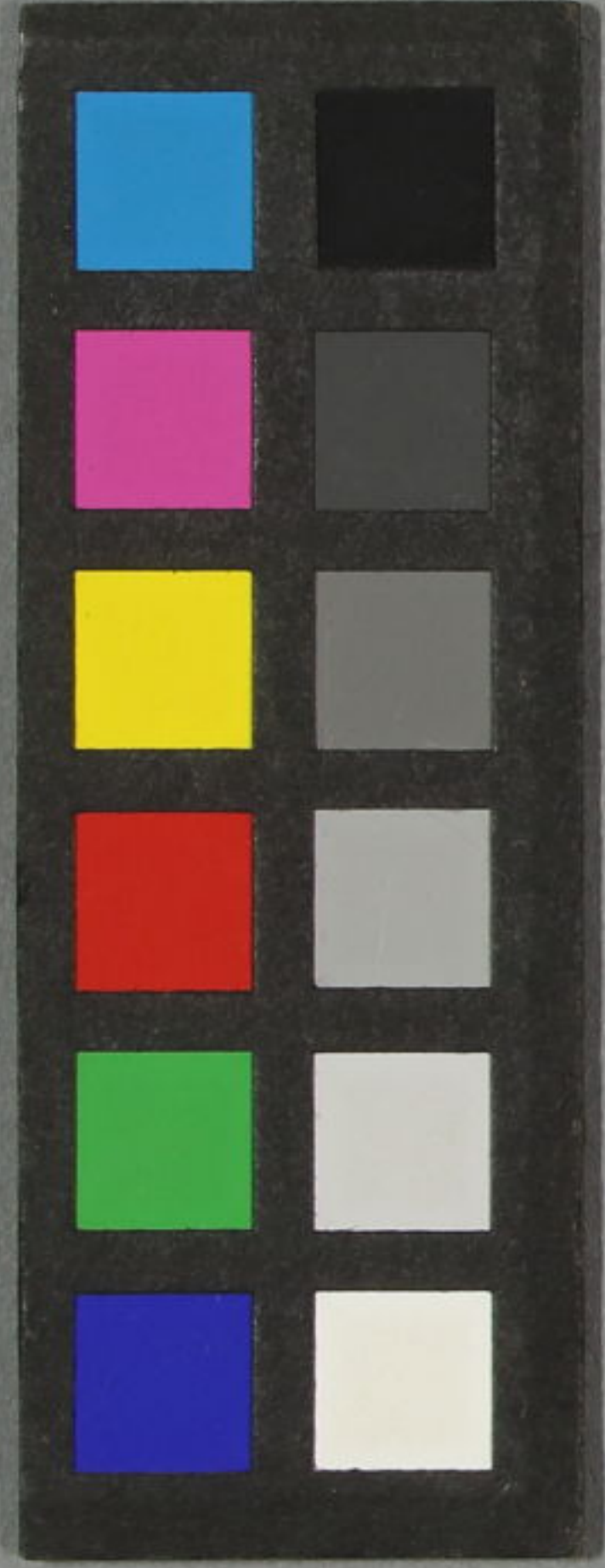
國輝画

此の國輝画は、
日本の名畫家、
西馬驛の筆で、
描かれたものである。
その趣意は、
日本の文化を、
海外に紹介する
ことにあり、
その内容も、
日本の歴史や、
風俗を、
詳しく描き出さ
れている。



西馬驛
此の國輝画は、
日本の名畫家、
西馬驛の筆で、
描かれたものである。
その趣意は、
日本の文化を、
海外に紹介する
ことにあり、
その内容も、
日本の歴史や、
風俗を、
詳しく描き出さ
れている。



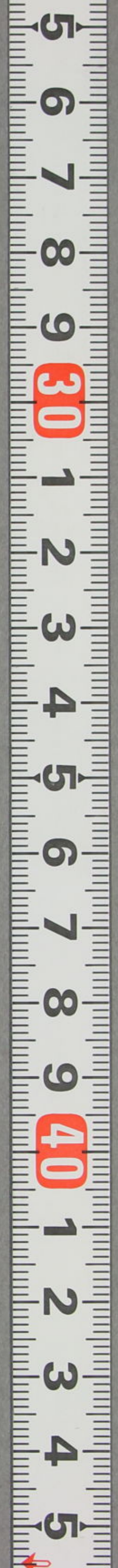


國輝画

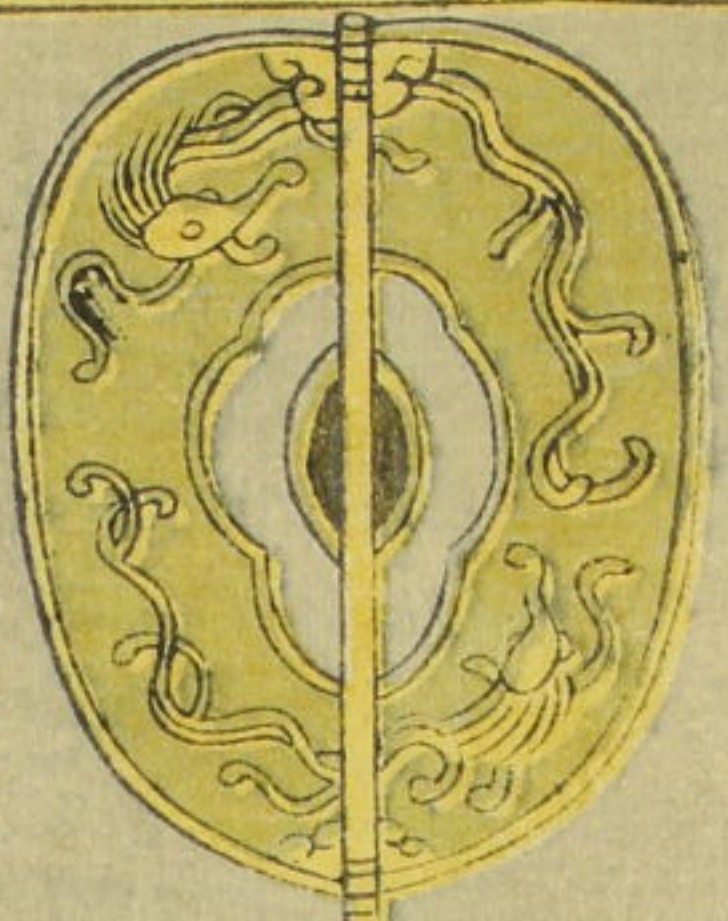
西馬譚

下編六十

~ 13
3693
32



明人 13
號 3693
卷 32



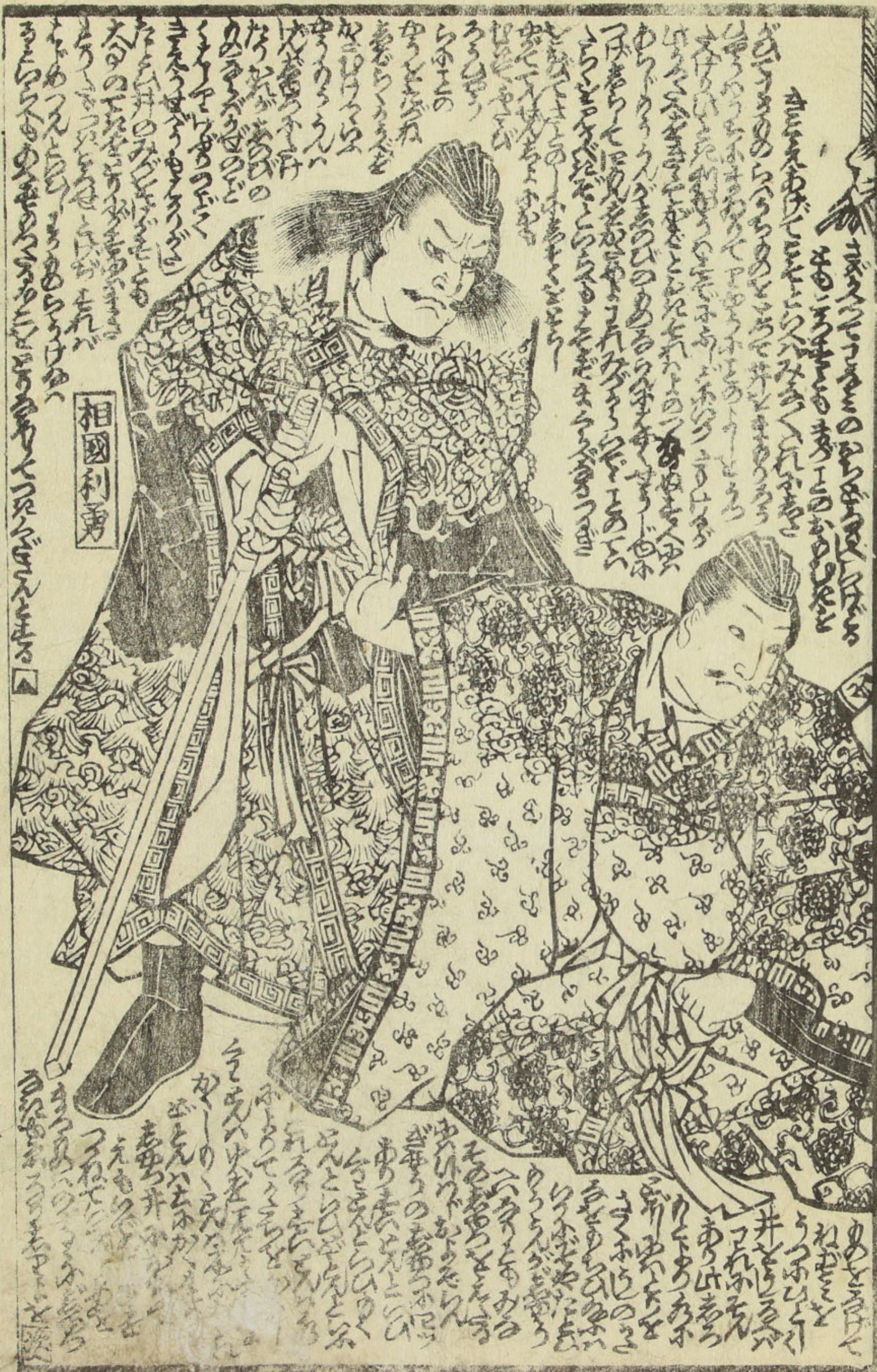
第十卷 第十卷 第十卷

錦堂發苑記

三五



三十五



相國利勇

五月十一

十一



2

鳥

鳥





三月廿二日

十四

三月廿二日

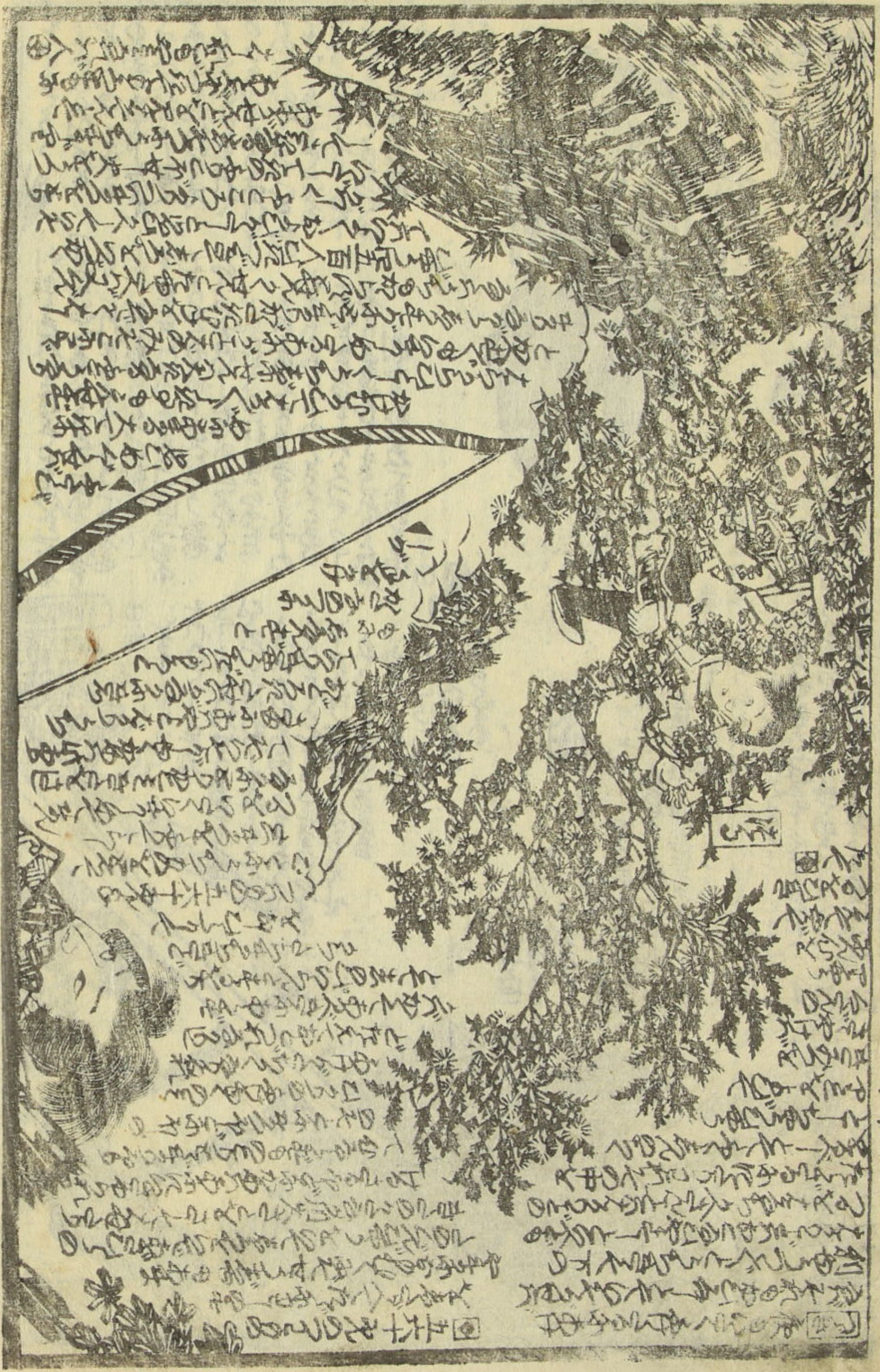
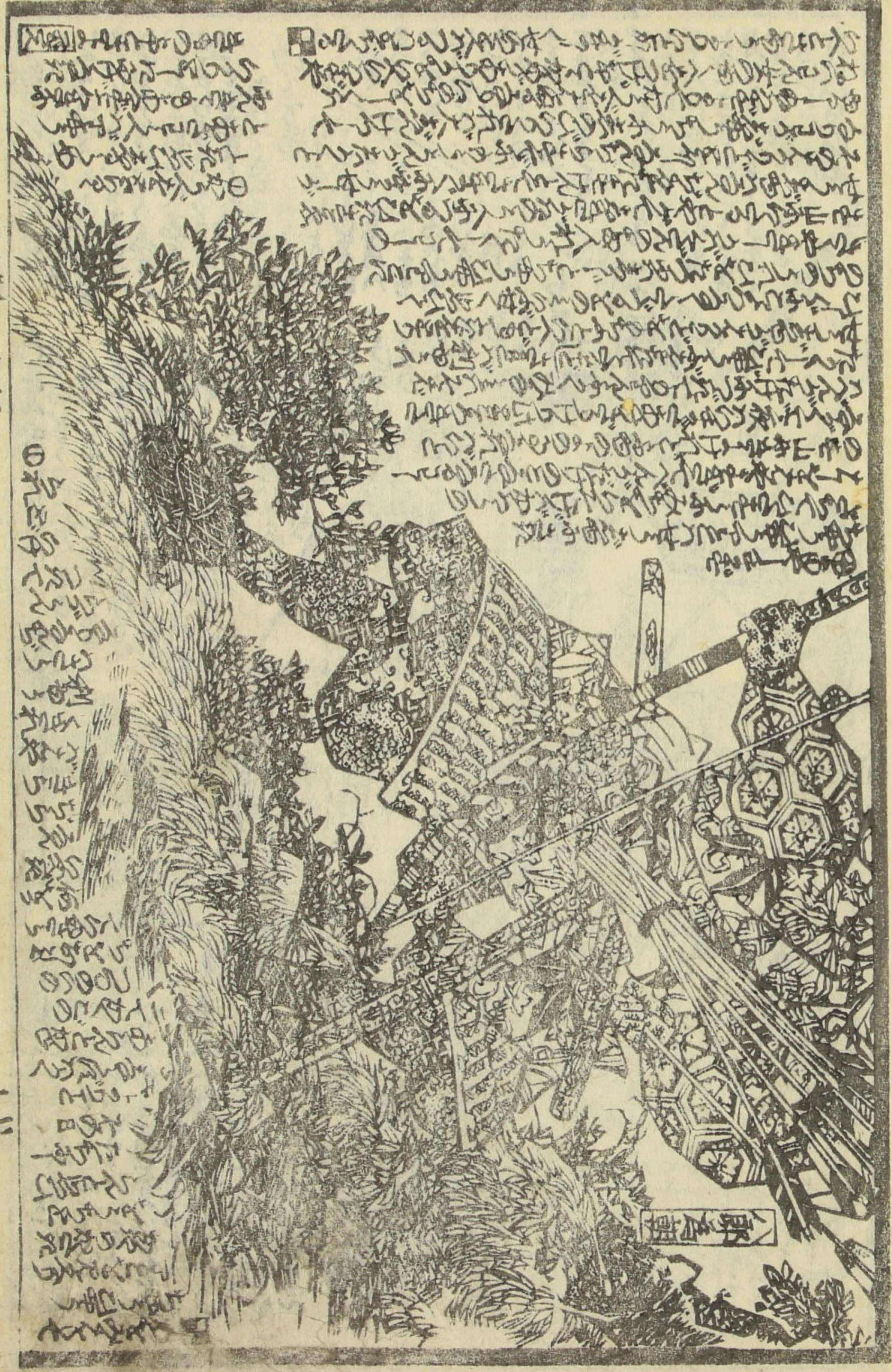
十四



源為朝

五ノ月十一日

十五



三浦月十六

三浦月十六

三浦月十六

三浦月十六





あつちの山がまじりぬ
おとやうのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと

あつちの山がまじりぬ
おとやうのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと

あつちの山がまじりぬ
おとやうのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと

あつちの山がまじりぬ
おとやうのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと

三十一



あつちの山がまじりぬ
おとやうのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと

あつちの山がまじりぬ
おとやうのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと

あつちの山がまじりぬ
おとやうのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと

あつちの山がまじりぬ
おとやうのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと
おのれはまゝのうらまゝと

為朝

三月十一日

十七



朝野群載

為朝



朝野群載

面

廣錢

